

令和6年3月22日

令和5年度後期終業式 挨拶

まずは、令和5年度も飯田高校生としての皆さんの自覚ある行動のおかげで、本校に係わる大きな事故などがなく、終了できることに対して感謝します。ありがとうございました。

昨年5月に新型コロナウイルスが5類となったことで、今年度は様々な学校行事や班活動、生徒自治会活動等が制約されることなく行うことができ、皆さんの高校生活もより充実したものとなったことだと思います。と同時に、仲間と協働しながら、あるいは切磋琢磨しながら行う様々な活動の大切さも改めて実感したことでしょう。詳しくは触れませんが、学校というフィールドに留まらず、地域や県外、あるいは国外で主体的な活動や体験を行い、学びを深めた人も多く見受けられました。来年度もそのような活動に意欲的、積極的に取り組む人が増えることを楽しみにしています。そんなことを期待しつつも、年度の終わりということで、来年度に向けての本音ベースの話をさせてもらいます。

11月から12月にかけて、「学校生活に関する生徒アンケート」を実施しました。学年によっては、ベネッセでも同じようなアンケートを行ったかと思います。次のような質問がありました。

◆「飯田高校に入学して良かったと思っていますか」

➡どの学年も90%以上の生徒が、“良かった”、“どちらかという良かった”という前向きな結果となっています。

しかし、一方で、

◆「平日の平均学習時間は1日あたりどれくらいですか」

➡1年生、2年生ともに、ほぼ40%が“1時間以下”

◆「休日の平均学習時間は1日あたりどれくらいですか」

➡1年生、2年生ともに50%前後が“2時間以下”、さらに“1時間以下”も20%という結果が出ました。

このような実態をどう捉えたらよいのでしょうか。

9月の終始業式でも若干触れましたが、私たちが生きていく上では、すべてが同じ状況、平等であるということはありません。しかし、“時間”については、すべての人に24時間が等しく与えられています。この24時間をどのように使うのかはその人次第で、他者から使い方を強要されるものではありません。しかし、今話したアンケート結果が、飯田高校生の実態を表しているのであれば、この家庭学習時間の少なさを大変危惧します。

今年度、ある会議で石川県に行ったおり、マイクバスに乗っている高校生らしき若者の多くが、本(参考書)らしきものを出して読んでいる姿を目にしました。マイクロバスには石川県内のある公立高校の名前が記されていました。その高校名を見て、納得はしましたが…。また、同じ石川県の能登半島で元日に発生した大地震からまもなく3ヶ月が経とうとしていますが、少し前のNHKニュースで、石川県の輪島高校2年の男子生徒が、大きな被害が出た自宅で、段ボールを机代

わりとして、授業に遅れないようにと、毎日最低2時間は家庭学習をしているとの報道がありました。大変な厳しい状況ではあるが、自分の将来のために、まさに時間を惜しんで勉強をしているようでした。

企業では、“タイムマネジメント”、すなわち平等に与えられた“時間”をうまく使い生産性を上げることの重要性が言われていますし、“タイムマネジメントスキル”を身に付けることを求められています。このことは、会社でなくても、誰にでも当てはまることではないかと思えます。

自分の高校時代と比べて、確かに今の皆さんの高校生活が多忙化し、さらには以前には存在しなかったスマホ等の誘惑の度合いも非常に高まっています。班活動の後、部室で友達と他愛のない話をする時間も時には必要かと思えますが、先日の猪口先生の講演でも、睡眠時間を削ることには、あまりメリットがないと話されていました。昨日の1年生の「総合的な探究の時間発表会」でもそのような発表がありました。「Time is money」ではありませんが、新たな教室に移動し、気持ちも新たになった今日からでも、限られた時間を自律的に使うように心がけてもらえればと思います。

最後に、皆さんも知っていると思いますが、奥能登の珠洲市に本校と同名の県立飯田高校がありますが、その校長先生、角先生から先日電話を頂きました。3月のはじめに本校の生徒自治会役員が中心となり、飯伊地区の高校の生徒会と協力して行った募金活動等の支援に対して、涙が出るくらいうれしかったとおっしゃっていただきました。地震により学校にも大きな被害が出ているため、先日の卒業式も別会場でなんとか行ったこと、学校の水道が復旧するのは早くとも5月の連休明けになるとのこと、また、例年120名前後の入学者がいるようですが、来年度はその半分以下の50名程度ということなど、今後のことを大変心配されていました。しかし、それでも一歩ずつでも前に進んで頑張っていきたいと話されていました。私たちも能登半島の復旧・復興に関して、息の長い支援していければと思います。

以上、令和5年度の後期終業式の挨拶とします。